「地域のために、よかこつばしよう」と介護の道に

前田譲治

小規模複合型介護福祉施設
「岱明の里」施設長
揮毫　前田　譲治氏

小規模複合型介護福祉施設「岱明の里」施設長の前田譲治さん(63)。同施設を運営する株式会社黎明と有限会社七丈原の代表取締役を務めている。平成15年のグループホームを皮切りに、デイサービスセンター、住宅型有料老人ホーム一番館(ヘルパーステーション併設)、住宅型有料老人ホーム二番館、住宅型有料老人ホーム三番館と、利用者の要望に応えるかたちで五つの施設を開設、運営している。

親の介護がきっかけに

玉名市岱明町で生まれ育ち、東京の大学を卒業。地元に帰って大牟田柳川信用金庫に入り同期の妻・由紀子さん(59)と結婚した。両親が高齢になって自宅で介護をしたり、友人たちの壮絶な介護の体験や悩みを聞く機会が増え、高齢者福祉に深い関心を持つようになった。

そして由紀子さんの父が入居した大牟田のグループホームを訪れるたびに、病院でも特別養護老人ホームでもない、その家庭的な雰囲気にふれて、「こんな施設を運営できれば」と思うようになった。その頃、介護保険法の施行により、民間でもグループホームの運営が可能になったことから「地域のために、よかこつばしよう」と、この道に進むことを決心。

30年間勤めた信金を退職後、介護や看護に関わる勉強を積んで、社会福祉主事やヘルパー2級、知的障害ヘルパー、ガイドヘルパーなどの介護資格を取得。グループホームの全国組織に入り、東京や大阪などで開かれる研修に参加して施設運営の知識を高めた。また県内の施設を視察に回る一方で、町や県へホームを開くための申請に奔走した。

開設準備をともに取り組んだ由紀子さんは、周囲から厳しい意見もあったが、前田さんのひたむきな姿を見たり、手続きを進めていくうちに、「何とかなる。主人といっしょにやっていこう」と思えるようになったという。

信金の応援得て、今がある

やっとのことで開設許可を取り付けたものの、思わぬ壁にぶち当たった。建設費用が不足してしまったのだ。どうしようかと算段に頭を痛めていたとき、信金の糸永清一元理事長から「応援するばい」と声を掛けてもらい、新たな道のスタートを切ることができた。その後も施設拡充の折りに、信金には大きな力になってもらった。

「糸永さんのあの一言がなければ今はなかった」と前田さんは当時を振り返る。

施設の運営は、利用者本位の設備とサービスの向上を目指す。「利用者一人ひとりの尊厳を保ち、その人らしい生活をしていただくためには、看護と介護のスタッフが親身になってお手伝いをしなければなりません。誠心誠意に努めることで利用者にも家族にも気持ちは伝わります」。

職員の育成では、利用者に寄り添う心を備え、高めてもらうように指導。毎日の朝礼で引き継ぎを密にすることや、職場の環境づくりを図る四つの委員会の設置、地域清掃などのボランティア活動、福利厚生の充実にも力を入れる。

「感謝から報恩へ、報恩から地域貢献へ」を基本理念に、利用者には安心で低料金、そして職員には高い報酬を—この難しい課題にあえて挑戦し続けている。

小規模複合型介護福祉施設「岱明の里」
玉名市岱明町浜田356-1
☎0968-66-8830